

咲華

編集・発行
医療法人 翔夏会さっか眼科医院
八幡西区穴生1丁目17-21
電話 093-642-6161



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

この1年を振り返ると、緑内障、加齢黄斑変性、白内障、飛蚊症など加齢により進行する眼病変の占有率が上ってきています。糖尿病網膜症の硝子体手術も増加しています。

高齢化社会を迎え、ますます

ますその傾向は続くでしょうが、視力の回復が難しい疾患が多く、治療する我々にとっても厄介な問題になっていきます。時に日常生活に影響するため仕事、介助などの問題で社会問題にもなっています。40歳を過ぎると一度は眼科受診して検診を受けるだけで早期発見でき助かることがあります。検診だけでなく病気で受診したときに検査してもらおうのもよいと思います。近年、コンピューター、電子機器を利用した高価な機器が続々と開発されています。

日々の診療に役立てる為に極力購入したいと思えます。眼底検査等でも殆ど顕微鏡下の観察になり画像として保存し経時的に比較検討することが出来るように変わってきています。視機能にとって大事な眼底黄斑部も、あたかも組織標本を見るかのような像を日々の診察の中でみることが出来るようになります。これから起きるであろう初期の変化の早期発見や患者さんの訴えに一致した病変を確認し患者さんも納得できるようになりました。

眼内新生血管や出血に対する薬物治療も行われるようになりました。定期的に観察しながら数回繰り返すことが必要なものもあります。少なくとも今まで治療方法がなかつ

たことを考えると飛躍的に進歩しました。

今年も病院の理念に基づき患者さんにメリットの多い医療が提供できるように、日々邁進することを誓い、新年のご挨拶といたします。

今年もよろしくお願いいたします。

院長 属 佑二



さっか眼科 Web

当院の様々な情報をお知らせします。お気軽に御覧下さい。



パソコン用 URL
<http://www.sakka-ganka.or.jp/>

眼底カメラ (写真) について

眼底は血管を直接観察できる唯一の場所です。視神経によって脳と繋がっているため眼底検査は眼の病気だけでなく成人病を中心とする全身疾患の重要な検査です。

当院では定期的に眼底写真を撮り記録に残しています。今回は代表的な眼底疾患の写真をご紹介いたします。

正常の眼底写真



黄斑部 視神経乳頭

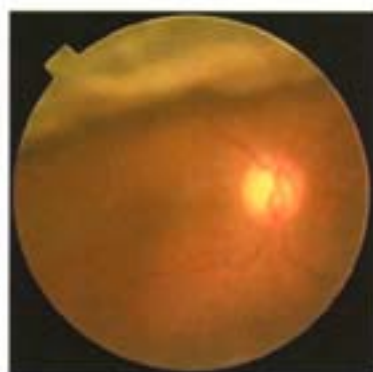
眼底写真には血管や神経線維、視神経乳頭、黄斑部等がみられます。視神経乳頭は血管や神経の眼外への出口で、白く丸い形

で写ります。黄斑部は物を見る中心で、少し黒ずんだ感じに見える部分です。

診察ではこれらの形状や色などを確認しています。

網膜剥離

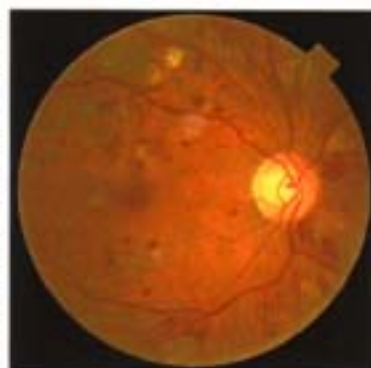
網膜剥離の多くは網膜に孔があき、そこから網膜下に水が入っておこる病気です。剥離した網膜は徐々に機能を失い放置すれば失明に至ります。



右写真では、上方に剥離した網膜が写っており、カーテンのように網膜が波打って浮いているのが分かります。

糖尿病網膜症

糖尿病網膜症は糖尿病合併症の1つです。網膜血管とくに毛細血管の病気で、その程度や範囲が徐々に拡大することで網膜症は進行していきます。自覚症状が現れるのは網膜症が、かなり進行した段階からです。



右写真では糖尿病網膜症の特徴である全体に現れる点状の出血や白っぽい濁りが見られます。

網膜静脈閉塞症

網膜静脈閉塞症は網膜静脈に血栓が出来、流れ

が悪くなる病気です。血液が血管外にあふれ出して網膜に出血やむくみを引き起こします。



右の写真では網膜静脈分枝閉塞症に特徴的な火炎状の出血を認めます。

このように眼底カメラによる撮影は、現状把握や今後の比較などの為に重要です。また、ご本人の眼底写真を用いて病状を説明すれば、より分かりやすくなると思います。当院ではこのような眼底写真撮影を積極的にを行っています。(原)



さっか眼科の沿革

昭和40年5月	さっか眼科医院（属 将夫 院長）開院
昭和52年	眼内レンズ移植手術 開始
昭和54年	属 佑二先生 院長就任
昭和60年11月	第1代 副院長 下川 章藏先生 入局
昭和62年4月	医院建屋新築完成
10月	第2代 副院長 大塚 正博先生 入局
平成6年8月	医療法人 朔夏会 設立
平成7年10月	第3代 副院長 中野 信彦先生 入局
平成10年4月	眼内レンズ挿入手術 1万眼 達成
平成12年2月	エキシマレーザー 近視矯正手術 開始
平成14年4月	第4代 副院長 板家 佳子先生 入局
平成18年	ICL（有水晶体眼内レンズ挿入手術）認可取得
平成18年9月	電子カルテ導入
平成21年7月	眼内レンズ挿入手術 2万眼 達成
10月	多焦点眼内レンズの先進医療認可 （先140）第3号
平成22年5月	開院45周年記念



電子カルテ導入から5年

電子カルテを導入して5年が経過しました。その間、大きなトラブルもなく運用できており、そのメリットを実感しています。今回はその電子カルテについての話をしたと思います。

カルテ電子化への歩み
当院では次の2段階を経てカルテの電子化を行いました。

- ・1988年画像ファイリングシステム導入
- ・2006年電子カルテシステムを導入

画像ファイリングシステムとは？

眼底写真など各種画像をパソコンで管理するものです。システム導入以前は、写真を撮影し現像、出来た写真を貼り付けてカルテを完成していました。が、現状の記録が主な役割でした。画像ファイリングシステム運用により、「院内のどこからでも」「すぐに」画像を見ることができるようになりました。これにより、説明の為に各種画像を簡単に利用できるよ

電子カルテのメリット

電子カルテには画像ファイリングシステムも入っていますので、メリットはそのまま生かされます。

これに加え、
・診察から会計までの時間が短縮されたこと

・紙カルテのような経時的な劣化がないこと

・画像だけでなく、各種データも即時に供覧できるので、より分かりやすい説明が可能になったこと

・カルテを探し出す必要がなく、院内のどこからでも内容を参照できるので、皆様からの問い合わせに早く対応できるようになったこと

・他院への添書作成やその為のデータの準備が簡単になったこと
などが挙げられます。


今後、各種改善を行うとともに、起こりうるトラブルを予測し、万が一の時にでも問題なく運用できる体制を充実させたいと思います。

（榎本）

年男 年女


体調を壊さないように仕事をし、趣味のテニス・水泳をやめずに続ける。

谷川 雄輔




家族の健康！たまりにたまった写真の整理を頑張ります。

中西 靖子



我以外皆我師の気持ち忘れず1日ひとつ感動すること。

属 奈穂子




- << 院外発表 >>
- 9月11日 第27回 日本眼科看護研究会
「手術に対する患者説明用ビデオ導入を試みて」
(看護師 米田)
 - 9月15日 北九州眼科研修会
「最近経験した網膜前膜・黄斑円孔の硝子体手術の検討」
(副院長 板家)

患者さまからの投函

★長寿眉 掻あげ秋の手術かな

★長寿眉 かきあげて見る 菊くらべ

山形 達雄 様(92歳)
長生きの証である長寿眉を切らずに手術できたことを喜ばれた作品です。



編集後記

皆さんは「冷凍された日本語」の話をご存知ですか？半世紀前に海外移住されたある日本人女性、自分の話す日本語をそう呼ぶそうです。

ここ数十年で日本語は、多様な形に変化し続けています。中でも若者が使う、いわゆるギャル語は、(丁寧語・尊敬語・謙譲語もある)本来の慎ましやかな日本語とは真逆な方向に進む一方で、私にとってはもはや解読不能の領域です。

当院の患者さんにも、本当に綺麗な日本語を話されるご高齢の方がいらっしやいます。そんな方と会話をしていると、言葉の中にさりげない心配りや優しさを感じ、こちらまで癒され心が和みます。祖先からの美しい日本語を後世に残すためにも、冷凍された日本語を解凍するのが私たち世代の課題だと思っています。

本年もどうぞよろしくお願いたします。(事務長 才藤)